



おのやすひで
小野泰秀

市長 1 期 4 年の総括は

～ 公約概ね達成 ～

質

国内外の情勢を踏まえ、本市の景況感と今後の進むべき方向性は。

答 市長

自主財源の中心となる税収も年々減少し続けており、収納対策については引き続き強化し、現在、進めている行財政改革をきちんと遂行していくことが必要です。

質

マニフェストの達成度とその成果や評価、課題について、どのように総括しているのか。



ふれあいミーティング（大野中学校）

答 市長

「1メートルからの民主主義」という政治信条に基づき、各団体や各地域に出向き、意見交換などを行う「ふれあいミーティング」や「自治会行政連絡会」を開催し、マニフェストについては概ね達成できたと考えています。

高い介護保険料

～ 介護保険法の基本的理念を具現化 ～

質

介護保険料の上げ幅を抑制するために、一般会計から介護保険特別会計へ4億5千万円も繰り入れたが、県内では1位、全国では9番目に高い保険料となっている原因と今後の抑制策は。

答 高齢者福祉課長

高い要因として介護に係る施設が充実しており、他市町村より高齢化していることや介護保険の認定率が高く、第1号被保険者に所得の低い方が多いことです。

抑制策としては、常に健康の保持増進に努め、要介護状態となった場合、適切な保健医療サービスおよび福祉サービスを利用することにより、その有する能力の維持向上に努めるという原点に戻り、再度、市民一人一人が思いを重ねていただきたいと考えます。

質

少子高齢化や人口減少に歯止めをかける施策と、本市の将来像としてどのようなまちを目指すのか。

答 社会福祉課長

国、県、市、企業、地域などが相互に補完しながら総合的な少子化対策として実行していく必要があります。子どもから高齢者まで市民の誰もが健康で元気で幸せを実感でき、笑顔で暮らせるまちづくりを目指します。

人口減少の歯止め策は

～ さらなる行財政改革の推進が肝要 ～

どうなる介護保険

～ 適正化を推進 ～



ふ か た せい ぞ う
深 田 征 三

質

協働のまちづくりとは、具体的にどのような取り組みをしているのか。

答 市長

協働のまちづくりとは、「まちづくり基本条例」に明記しているように、市と市民が相互に連携、協力し合いまちづくりを行うことであると考えています。

これまで新庁舎建設やケーブルテレビ事業の推進、コミュニティバス運行事業など、各

質

町での市民座談会や自治会ごとに説明会を開催し、市民の皆さまのご意見などを伺いながら、関係課との調整などを図り、事業推進を行ってきました。

平成24年3月に策定した「老人福祉計画及び第5期介護保険事業計画」の進捗状況は。

また、危機にある高齢者医療や介護保険制度の堅持に向けた介護給付費の低減施策は。

答 市長

健康の保持増進策として「健康づくりの推進」では、生活習慣の改善に取り組み、「生きがいのあるまちづくり」では、高齢者の集いの場の確保に努めている。また「安全・安心な暮らしをおくる」では、緊急時の対応、救援体制づくりに充実を図っています。

質

第5期に続く第6期の介護保険事業計画の最終年度となる平成29年度を見据え、「給付適正化ロードマップ」を作成し、介護保険法の精神を具現化して介護保険適正化を推進していきます。

市総合計画にあるまちづくりの理念である「やさしく、たくましく、ともに築く豊後大野市」の

答 市長

言葉にふさわしいまちづくりを成し遂げるための決意を伺う。

今の本市の状況は、未来の日本の状況であり、介護保険制度の抜本的な改革の必要があると考えています。

地域の中で心豊かに生活できるための施策を考え、子どもから高齢者まで「オール豊後大野市」で取り組むことが喫緊の課題です。「まちづくり基本条例」の具現化に向け、先頭になって市民の皆さまとともに取り組んでいきたい。

第1次 豊後大野市総合計画 後期基本計画

～ やさしく、たくましく、ともに築く

豊後大野市 ～

